

# DYNAMIS



南山大学  
ライネルス中央図書館  
リニューアル!

## CONTENTS

南山大学ライネルス中央図書館 リニューアル!	P.1-2
大学生と、本と映画。	P.3-4
図書館長からひとことと、本。	P.4

図書館研修生活動報告	P.5-6
図書館研修生になるには	P.6
結びのことは「こんなときにこの1冊」	P.7
リニューアルイベントのお知らせ	P.7

結びのことは

こんなときにこの1冊

プログラムを作るという作業は、頭の中で考えた計算の手順をコンピュータの上で再現する高度な知的作業です。プログラムを作るときのお勧めの一冊として、「リーダブルコード」を紹介します。

著者はいいプログラムコードを、「他人がそのコードを見たときに、理解にかかる時間が最短になるもの」と定義し、読みやすいコードを作るにはどう配慮を行うべきかを紹介しています。読みやすいコードは、単に理解しやすいだけでなく、間違っている場合でも間違っている場所を把握しやすくしてくれます。重要なのは、他人には「半年後、中身を忘れた自分自身」も入っており、自分のために読みやすいコードを書くことにもなります。

本書では、表層的な見た目である名前・コメント・レイアウトのようなコード全体に適用できる簡単なヒントから、プログラムの構造的な面であるループやロジックの制御を理解しやすく再編成する方法や、巨大なプログラムのかたまりを分解して再構成する方法などを紹介しています。表層的な見た目の改善例では、名前・コメント・レイアウトの重要性を、実際のプログラムコード付きで以下のように紹介しています。

- ・変数の名前の付け方ひとつで、見やすさが格段に変わること  
変数やメソッド・関数に名前を付ける場合には、意味が明確となる単語を使いながら、接尾辞や接頭辞で情報を追加することで、目的と役割が明確になります。プログラム内で使われる場所の広さによって変数の長さを変えることで、役割を効果的に伝えることができます。
- ・レイアウトの工夫は手間がかかるが、その分効果があること  
同じ意味の情報が同じ場所にくるようにレイアウトを考慮してプログラムを作成すると、プログラムが格段に見やすくなります。レイアウトを常に統一していると、統一されたレイアウトから異なること自体に「何か意図がある」ことを示すことができます。
- ・コメントを付けることの意義と、どんなことをコメントにするべきか  
コメントは動作には直接関係しないが、理解するうえで重要な要素です。プログラムを見ればすぐにわかることを記述するのではなく、プログラムを作成するときに自分が考えていたことを書くことで、何に注意していたかや、何を考えながら決定すべき要素を決めていたかを伝えることができます。

本書は、プログラムに組み込まれた手順をわかりやすく伝え、意図をプログラムに残すことの重要性を改めて確認させてくれる一冊です。

▼「リーダブルコード：より良いコードを書くためのシンプルで実践的なテクニック」  
Dustin Boswell, Trevor Foucher著；角征典訳；オライリー・ジャパン、2012  
(請求記号：549L || 7060) (所蔵館：学外書庫)

理工学部ソフトウェア工学科 准教授 横森 励士

図書館では  
リニューアルイベント  
を企画しています。

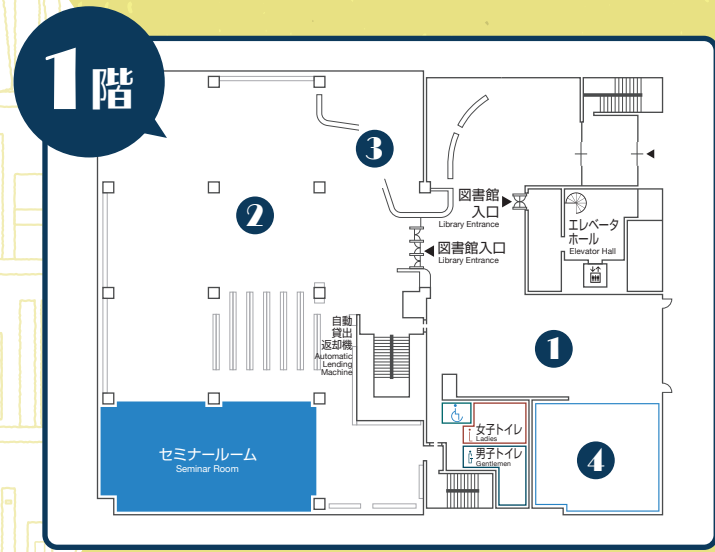
2023年度の1年間でさまざまなイベントを行います。  
図書館WebページやPORTAでご案内しますので、  
ぜひご参加ください!





# 南山大学 ライネルス中央図書館 リニューアル!

2023年4月、南山大学図書館は  
南山大学ライネルス中央図書館として生まれ変わりました。  
新しい図書館には、人・資料や情報・異なるグループが相互に  
「である」「つながる」「かわる」ことができる  
様々な空間ができました!



## 2 メディアルーム

図書館にある視聴覚資料を観ることができます。



## 1 エントランスラウンジ

壁面には、南山学園の創立者であるライネルス師やキャンパスを設計したレーモンド氏についての展示があります。



## 2 展示エリア

貴重な資料、学部や学生の研究発表などを展示し、知的好奇心を刺激する空間を目指します。



## 4 NANTO ルーム

イベント(講座、上映会、ワークショップ、ギャラリートーク)などに利用できます。



## 3 サービスカウンター

図書館利用についてわからないことがあれば、こちらへどうぞ。



## 1 閲覧席

一人で集中して勉強や研究、読書ができる静かで快適な空間です。外の景色も楽しめます。



## 4 新聞コーナー

国内外の当日の新聞や主要新聞のバックナンバーがあります。



## 3 新書・文庫コーナー

新書や文庫を集めて配架しています。



## 5 新聞庫

新聞コーナーに配架していない新聞の1年分のバックナンバーを保管しています。



## 1 閲覧席

約100席の閲覧席が利用できます。



## 2 事務室

図書館事務室のカウンターです。



## 1 電動式移動書架

電動書架が設置されています。



## 2 新聞保存庫

製本した新聞を配架しています。





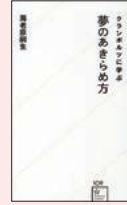
# 大学生と、本と映画。

図書館から大学生のあなたにお勧めの本と、映画を紹介します。勉強のためは勿論ですが、少し世界を広げて大学生活の中でたくさんの本と映画に出会ってください。

※QRコードから図書館の所蔵詳細にアクセスできます。

## クランボルツに学ぶ夢のあきらめ方

海老原嗣生 著



少しでも前向きに行動するきっかけになればと思い、本書を選びました。タイトルは過激ですが、「自己とキャリアの形成」の指定図書にもなっているこの本をきっかけに自分だけの幸せの形が見つかると思います。

## 青い光が見えたから：16歳のフィンランド留学記

高橋絵里香 著



ムーミンの本と出会ってから6年、フィンランドでの高校生活を始めた16歳の少女。「人間が人間らしく生きるために大切なもの」が息づくフィンランドを舞台にした心の旅。傷ついた心の少女にどのような光が射したのでしょうか。

## 図書館長からひとこと、本。

大学は人と人がつながる場であると同時に、すばらしい書物や資料と出会う場でもあります。そうした出会いは自分自身の成長につながり、ひいては世界を変えていくきっかけともなるでしょう。2023年にあらたにオープンするライネルス中央図書館は、まさにそうした「であう」「つながる」「かわる」場として構想されました。地の塩、世の光として真のイノベーションを実現するために、本図書館が大いに活用されることを心から願っています。



図書館長 太田 達也 先生

## 節英のすすめ：脱英語依存こそ国際化・グローバル化対応のカギ！

木村護郎クリストフ 編著



「日本語の通じない相手には英語を使う」「グローバル化に対応するに英語力を高めよう」といった考え方に揺さぶりをかける、画期的な書です。節度をもって英語を使う「節英」の姿勢から、新たな世界が開けてきます。

## 他者の靴を履く：アナーキック・エンパシーのすすめ

ブレイディみかこ 著



「他者の靴を履く」=エンパシー。その意味とは「他者の感情や経験などを理解する能力」という。多角的な視点から切り込み、考察するブレイティワールド炸裂の一冊。社会の一員として他者とのように関わっていくか考えさせられ、何度でも読み返したくなる。

## 海をあげる

上間陽子 著



著者は沖縄で若年出産をした女性たちの調査を続ける研究者。研究もひとりの女性としての日々も悩みながら混然一体となって、沖縄の今を生きている著者の姿は自然で美しい。

## 観光客の哲学

東浩紀 編



ここでいう「観光客」は文字通りの意味でもあり暗喩でもある。どういう意味?と思ったら手にとってほしい、哲学入門として読むことができる書。人間は何のために生まれて何のために生きていくのかを考えるきっかけになるかも。

## 戦争は女の顔をしていない

スヴェトラナ・アレクシエーヴィチ 著



第二次世界大戦に従軍し、武器を手に戦ったソ連の女性兵士たち。国を守りたい気持ちに性差はないはずなのに、戦後は謂れなき偏見に晒され、戦争体験を封印せざるを得なかったのは何故?! こんな時代だからこそ彼女たちの魂の叫びに耳を傾けてください。

## サボり上手な動物たち：海の中から新発見！

佐藤克文、森阪匡通 著



動物たちは過酷な世界の中でどのようにして自身を守り命を繋いでいるのか。彼らは決してサボっているのではなく、人間と他の生物との隙間を見出し、上手に活用しているのだ。動物たちの日常生活の何気ないことから研究のヒントや解決の手段が生まれるかもしれない。

## モノが語るドイツ精神

浜本隆志 著



ドイツといえば、コーヒーとビール、車や食器、グリム童話など魅力的なモノが多くあります。実は意外な意味があった!なんていう、発見があるかもしれない。ドイツ人の生活や考え方を知るきっかけの1冊としていかがでしょうか。

## 仙骨姿勢講座：仙骨の“コツ”はすべてに通ず

吉田始史 著



仙骨という言葉が最近よく耳にします。骨盤を形成する一部分の骨ですが、その角度によって体に色々な変化が起こることがわかっています。仙骨と体の関係について理解し、正しい知識を持つことで、さあ、始めましょう、体と心のメンテナンス!

## マギーキッチンサイエンス：食材から食卓まで

Harold McGee 著



読み物ではなく実用書ですが、調理の科学的なプロセスを詳細に解き明かしています。

## 心を病んだらいけないの? うつ病社会の処方箋

斎藤環、與那覇潤 著



“友達っていないといけないの? 家族ってそんなに大事なの? 話でスベるのはイタイことなの?”……本書の各章タイトルを読むと、ちょっとドキッとしませんか。生きづらいと感じたとき手に取ってほしい、歴史学者と精神科医による対談書です。

## Wonder

R.J. Palacio 著



学校や家庭が主な舞台で比較的易しい英語で書かれており、洋書デビューにおすすめです。日常会話に取り入れたいネイティブが使う表現がたくさんあるのでぜひ原作にチャレンジしてみてください。

## 時間をめぐる哲学の冒険：ゼノンのパラドクスからタイムトラベルまで

エイドリアン・バードン 著



時間をめぐる新旧様々な問いに哲学者たちがどのように挑んできたのか分かりやすく書かれた哲学書。タイムトラベルは可能か、宇宙に始まりはあるのかなど、心躍らせるテーマが扱われているので、普段哲学に触れる機会がない方にも、是非読んでみてほしい。

## 「手紙屋」：僕の就職活動を変えた十通の手紙

喜多川泰 著



就職の先にある人生を、自分らしく生きるために。就職活動だけでなく、全ての年代の人にお勧めしたい一冊です。働くことの意味、生きることの意味を問いかけるとともに、新たな視点を得て力強く一歩踏み出す力をくれます。

## 認知症世界の歩き方：認知症のある人の頭の中をのぞいてみたら?

寛裕介 著



認知症のある方の頭の中では、この世界がどのように見えていて、何に困っているのか? 認知症のある方が暮らしやすい社会を実現するために、まずはあなたが「認知症のある方が生きている世界」を体験できるストーリーとなっています。

## ブローケン・ブリテンに聞け

ブレイディみかこ 著



EU離脱・貧困・コロナパンデミックなど英国激動の近年を英国在住の著者ならではの観点から語られる時事エッセイ集。多様性が広がる英国を通じて、現代の世界が抱える問題と一緒に考えてみませんか? 英国社会に興味がある方も必見の一冊です。

## 第二次大戦に勝者なし：ウェデマイヤー回想録(上)(下)

アルバート・C. ウェデマイヤー 著



アメリカの将軍が第二次世界大戦を振り返った手記。日本人からすると完全な勝者であるような気がするアメリカも、別の見方をしてみれば貧乏くじを引いていることがよくわかる。日常の一コマの描写には、和んで楽しめる部分もあった。

## グッド・ウィル・ハンティング：旅立ち

ガス・ヴァン・サント 監督



数学の才能を秘めながらも素行最悪の孤児ウィルと、そんな彼の心をゆっくり解きほぐしていく心理学講師ショーンの心の交流を描いた作品。友人関係、恋愛、未来への希望や不安……苦悩する若者の繊細な心の揺らぎが、美しい映像と音楽で描かれます。

## 裏窓

アルフレッド・ヒッチコック 監督



冒頭、主人公男性の職業から骨折して休職中のことまで、説明無しに映像で語られます。そして、身動きが儘ならない苛立ちの状況で、アパートの一室での覗き見の代償としての増幅する恐怖を、主人公の視点で追体験。「映画の様相」による技法をご堪能ください。

## この世界の片隅に

片淵須直 監督



第二次世界大戦時の広島や呉が舞台。どんな時も前向きに生きるすずの日常生活は、切なく、可笑しく、淡々と、強く、宿命的……。偏見や倫理観ではなく、善と悪も二極化で描かれてはいません。何かを感じてみてください。



# 図書館研修生活動報告

2022年度は12名が図書館研修生として活動を行いました。  
そのなかで7名の方に活動報告を寄せていただきました。

## 雑誌 コース Journals

### 検品業務



### 人文学部人類文化学科 杉浦 未桜さん

「資料の受入から製本(雑誌コース)」の研修を受講しました。海外から届いた新聞に損傷がないか確認したり雑誌を排架したりなどの様々な貴重な体験をさせていただきましたが、特に印象に残っているのは図書館員の方々から聞いた話です。コロナが図書館の雑誌にどのような影響を及ぼしたのか、雑誌担当の図書館員として雑誌の廃刊や電子化が進んでいることに対してどう感じているのかなどを教えてくださいました。図書館や書籍の形態が変わりつつある今だからこそ、研修生として活動できて本当に良かったと感じています。



### 配架準備

### 人文学部日本文学学科 大嶽 遥未さん

「雑誌コース」の研修では、新聞・雑誌の受け入れから配架、また電子リソースポータルサイトの管理などを体験させていただきました。新聞や雑誌、電子リソースといった様々な媒体を取り扱うことで、受け入れから提供と一言にいっても媒体によって注意すべき点が異なっていたことが印象的です。特に雑誌ならば製本、電子リソースならば不具合の確認といった提供後の業務は、図書以上に素早い情報提示が求められる雑誌であるからこそその業務であると感じました。目に見えない司書としての業務を体験できる貴重な経験をさせていただきました。

### 人文学部人類文化学科 小島 遥さん

私は、図書館研修にて、資料の受入から製本(A:雑誌コース)業務をさせていただきました。研修中は、未製本雑誌・紀要の受入や配架、雑誌の製本業務などを体験させていただきましたが、普段私たちが何気なく使っているOPACがどのような作業を経て管理されているのかよくわかりましたし、司書資格取得課程で学ぶことが実際に体験できたので、その後の授業内容もイメージしやすかったです。また、機関リポジトリについてなど、他の授業や課題でも活用できそうな内容を学べたので、大変貴重で有意義な体験をさせていただいたと思います。



### 発注業務

### 人文学部心理人間学科 小島 彩希さん

今回の研修では、雑誌の受入や配架、製本業務にかかわる業務を体験させて頂きました。本や雑誌の受入から装備の流れには多くの工程があることに驚きました。特に未製本雑誌・紀要の受入、雑誌製本業務はデータの作成や重複チェックなど多くの作業があり、間違えないように注意して行うのが大変でした。しかし、本の貸し出しには必要不可欠な作業を行っているという実感や全作業が終わったときの達成感はずばらしいものでした。今まで知りえなかった図書館の裏側を垣間見ることができ、図書館についてより深く理解することができました。



### 配架業務

## 図書 コース Books



### 学内書店選書



### 人文学部日本文学学科 野坂 美月さん

私は発注から装備までの一連の業務を体験しました。普段図書館を利用する際には見ることが出来ない作業ばかりで、毎回新たな学びがありました。発注作業は予算の確認や複本チェック、書店ごとの価格比較など多くの工程があり難しく感じましたが、何度か体験させていただいたことで、流れをつかむことができました。図書館の本棚に並べられるまでに多くの工程を経ており、想像以上に多くの人が関わっていることを実感しました。授業で学んだことを実際に体験したことで理解が深まり、今後の司書課程の授業のモチベーションも高まりました。

### 選書業務



### 法学部法律学科 大崎 珠実さん

図書の発注から装備までの一連の流れを学ばせていただきました。一見単純そうな作業にも見えますが、図書館にある膨大な数の図書一冊一冊に対して、重複チェックや購入する書店の決定、図書の情報登録といった複数の段階にわけ、細やかな作業を行っていきます。図書を、図書館を利用してくださる方の手に届くようにするまでに、多くの方々が裏方で精密な作業を行っていることがわかりました。サービスの円滑な提供を見えないところでサポートしていることを実感し、今後の勉学への励みになりました。



### 発注業務



### 人文学部日本文学学科 北村 翼さん

実際の業務を体験できるということで研修に参加しました。今回の研修では図書の書誌情報を南山大学で蔵書検索をできるように登録しました。大学図書館の職員さんも優しく教えてくれたので、楽しく業務を学ぶことができました。自分が研修で行った仕事によって、実際に蔵書登録されているところを見ると、自分も業務に携わったんだという実感が湧くため良い経験になります。図書館の業務を実際に学ぶことでより司書の仕事への理解が深まると思います。

## 図書館研修生になるには…

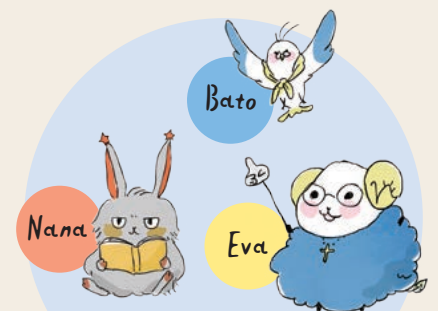
step 1 司書課程・学校図書館司書教諭課程に  
該当する授業を受講する

※1クォーターまたは1科目以上

step 2 PORTAや図書館Webページで研修生募集情報が  
掲載されたら、コースを選んで応募する

(クォーターごとに年4回募集予定)

step 3 採用が決定したら、研修スタート!



南山大学ライネルス中央図書館  
公式キャラクター  
なんと  
南図の三博士